

# アスパラガス伏せ込み促成栽培における萌芽性と収量性に関する研究

作物生産生物学講座 園芸学分野  
宮坂 佳世

【背景と目的】 アスパラガス (*Asparagus officinalis* L.) の伏せ込み促成栽培とは、約 1 年間圃場で育成した株を秋に掘り取り、ハウス内の温床に定植して加温し、端境期である冬に食用部位の若茎を収穫する作型である。伏せ込み促成栽培では冬季の若茎萌芽性が生産性において重要であるが、これを品種別に比較した例はない。近年伏せ込み促成栽培に適するとされる品種が育種されたことから、本研究ではそれらと従来品種を用いて若茎萌芽性と収量性の比較を行った。

【材料および方法】 萌芽性調査：アスパラガス品種 ウェルカム スーパーウェルカム ガインリム のポット1年生株を圃場に植え込み、2009年の10月から11月・12月・2月・5月に掘り起こして恒温棚にそれぞれ12株、8株、8株ずつ入れ、30日間萌芽調査を行った。収量性調査：アスパラガス品種 ウェルカム ガインリム と、PAS024 PAS030 PAS100 (パイオニアエコサイエンス株式会社育成系統)を2010年2月播種、6月定植、約半年間圃場で育成したのちに伏せ込み作業を行い、2010年11月～2011年1月まで若茎を収穫し、調査を行った。調査対象とした若茎は規格内にあてはまるもの(24cmに切断後8g以上)を用いた。

【結果および考察】 萌芽性調査：ガインリム では、10月から12月にかけての収穫本数の落ち込みが特に顕著であり、2月・5月と再び収穫本数が増加していく傾向であった。ウェルカム とスーパーウェルカム でも同様の傾向が認められ、月単位でも12月は10月・11月と比べ全体的に収穫本数が落ち、その後2月・5月には回復している。伏せ込み促成栽培ではウェルカム は休眠が浅いと言われ実際の栽培に用いられているが、ガインリム は休眠が深いと言われ栽培には用いられていない。今回の実験はこのことを基礎的に示した実験になったと考えられる。

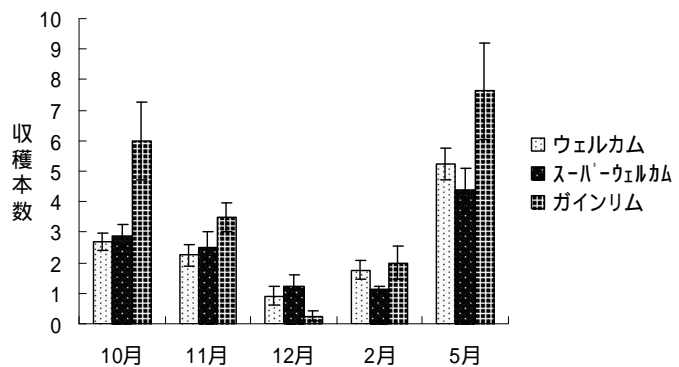


図1. 1株(ポット)当たりの総収穫本数. 値は平均値 ± SE.

収量性調査：Tukey-Kramer 法による検定で、規格内総収量においてガインリムでは有意に収量が少ないことがわかった。また、収穫本数についてもガインリムが有意に本数が少ない結果となった。このことからガインリムはウェルカムやPAS系統に比べて、収量性の点で伏せ込み促成栽培には向かないと考えられる。

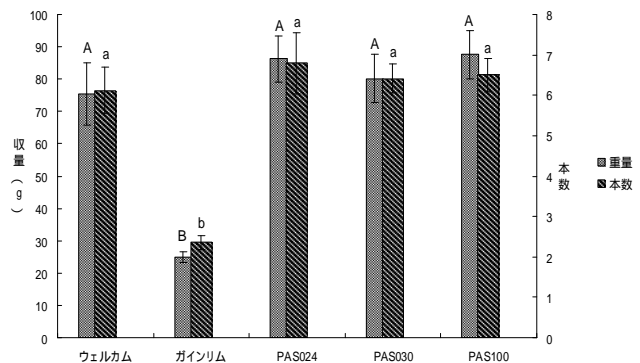


図2. 1株当たりの総収量と総収穫本数. 値は平均値 ± SE. 異なる文字間に Tukey-Kramer 法で 5%水準の有意差あり